



2024年10月期 第2四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Jun.14th.2024



CONTENTS

1 2024年10月期 上期決算の概況

- 2024年10月期 上期の概況
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2024年10月期 業績見通し

- 通期見通しサマリー
- 今後の事業環境について
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 半期推移まとめ
- 24/10期業績予想修正まとめ
- 中期経営計画の進捗
- 【収益性の向上】 エレクトロニクス事業の強化
- 【資産効率の向上】 電子基板用低誘電ガラス市場への参入
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2024年10月期 上期決算の概況

事業環境

- 世界経済は、一部の地域で経済活動が停滞しているものの、インフレ率の上昇が鈍化しており、緩やかに持ち直す動きが見られた
- ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢、中国における不動産市場の停滞、欧米における政策金利の高止まり、不安定な為替相場など、先行き不透明な状況
- カメラ市場は、スマートフォンの普及などによって縮小したものの、高品質な映像表現を求めるプロやアマチュアの需要が底堅く推移しており、ミラーレスカメラを中心にレンズ交換式デジタルカメラ及び交換レンズは堅調に推移
- 半導体露光装置はメモリを中心とした設備投資は弱いものの、生成AIやパワー半導体向け装置などの需要が堅調に推移
FPD露光装置はパネルメーカー各社の設備投資が弱く、需要が低調に推移

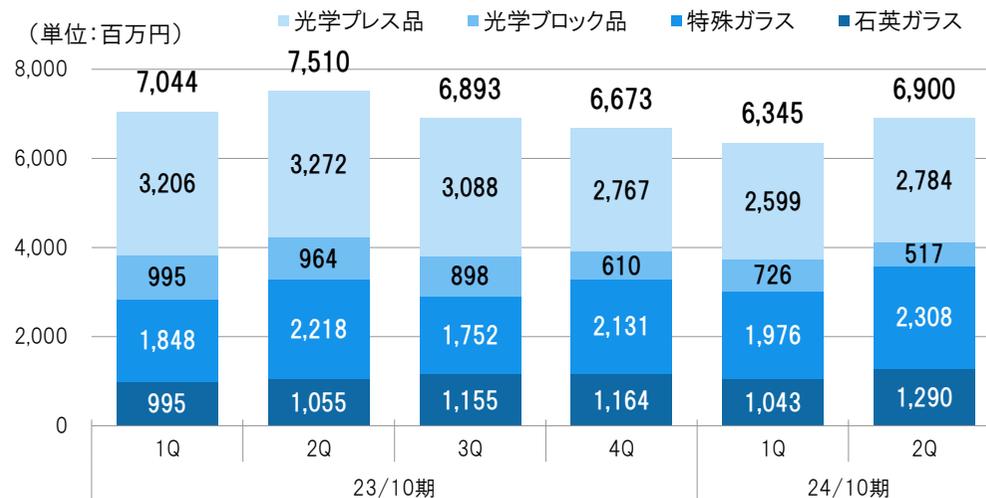
当社状況

- 売上高は、光事業において、多くを占める交換レンズ用途において、サプライチェーン内で在庫調整が続き、光学プレス品、光学ブロック品ともに販売が減少したことから、前年同期比9.0%の減収
- 営業損益は、生産設備の稼働率低下が続き製品の原価率が悪化したことから、前年同期比47.0%の減益
- 一方でエレクトロニクス事業は、半導体露光装置向けの旺盛な需要が続き、半期の売上高と営業利益ともに過去最高を更新

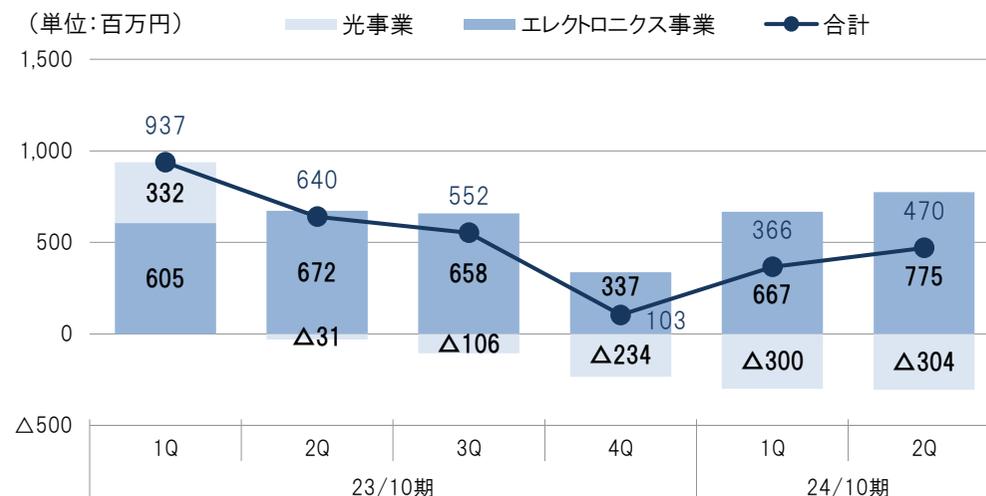
(単位:百万円、%)

	23/10期 上期	24/10期 上期	増減 増減率
売上高	14,555	13,245	△1,310 △9.0%
営業利益	1,578	837	△741
[営業利益率]	10.8%	6.3%	△47.0%
経常利益	1,631	1,127	△503
[経常利益率]	11.2%	8.5%	△30.9%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,220	605	△615
[純利益率]	8.4%	4.6%	△50.4%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 134.73 143.45	期中平均 148.91 161.32	

売上高四半期推移



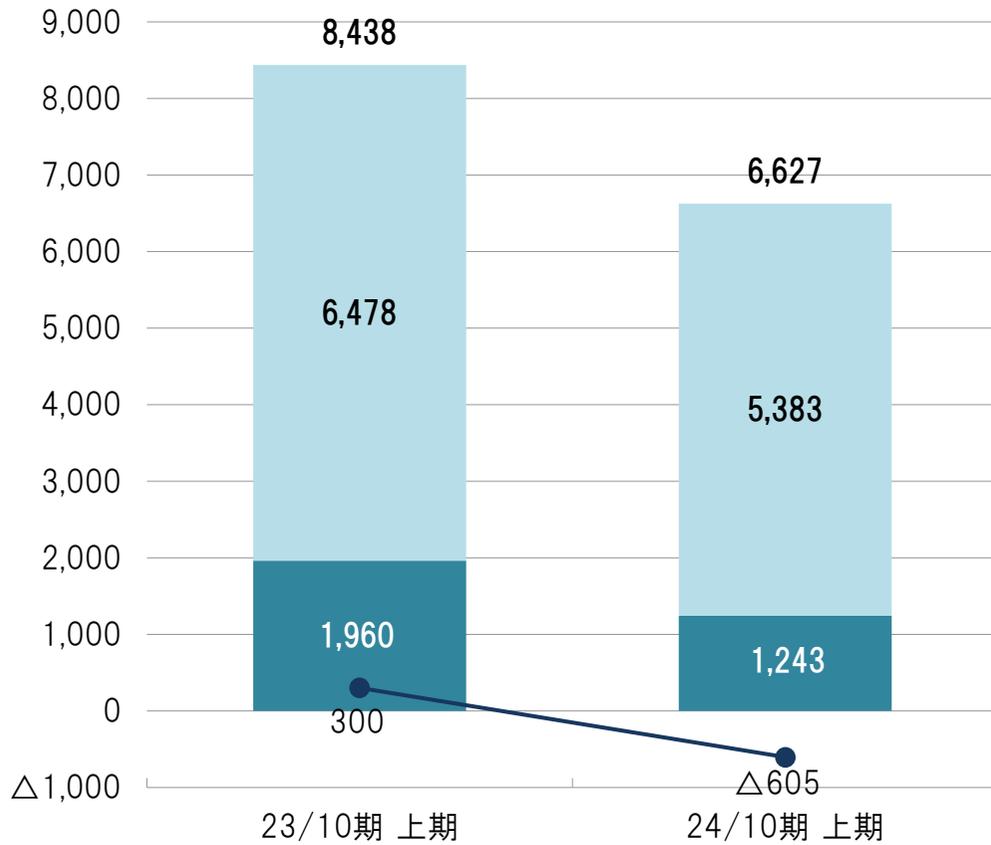
営業利益四半期推移



上期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

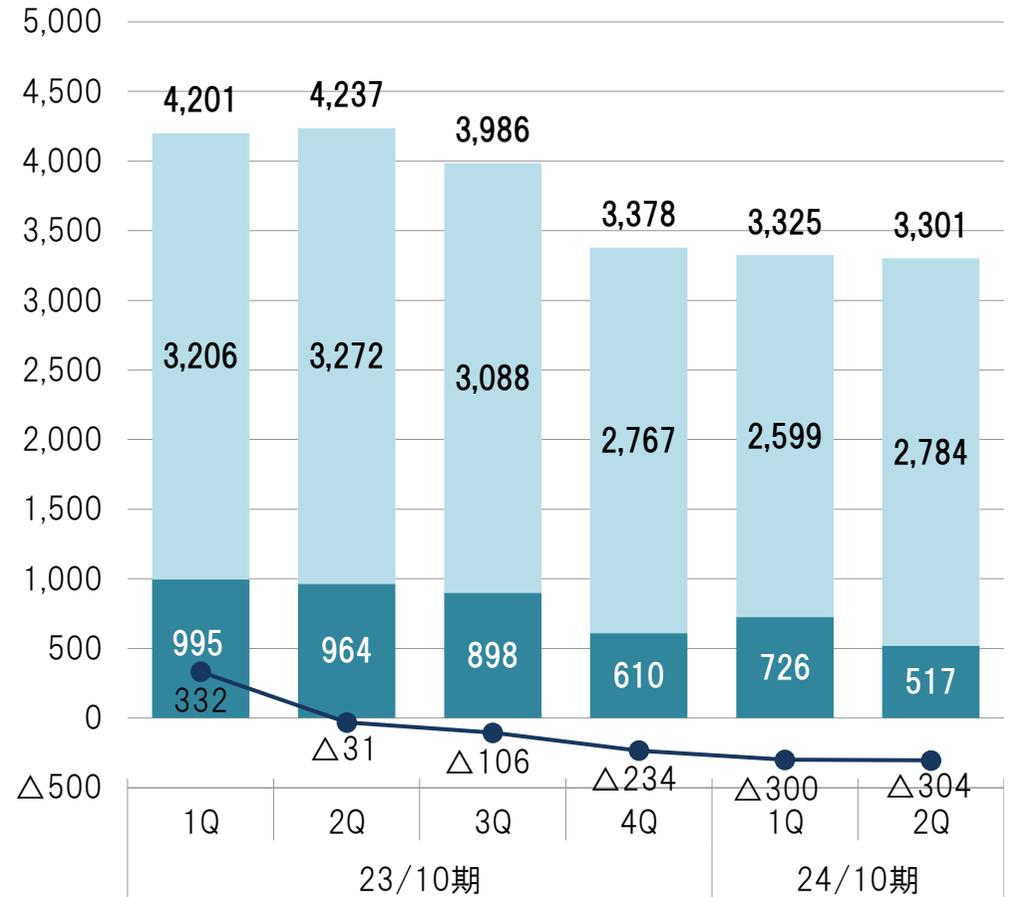
(単位:百万円)



四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

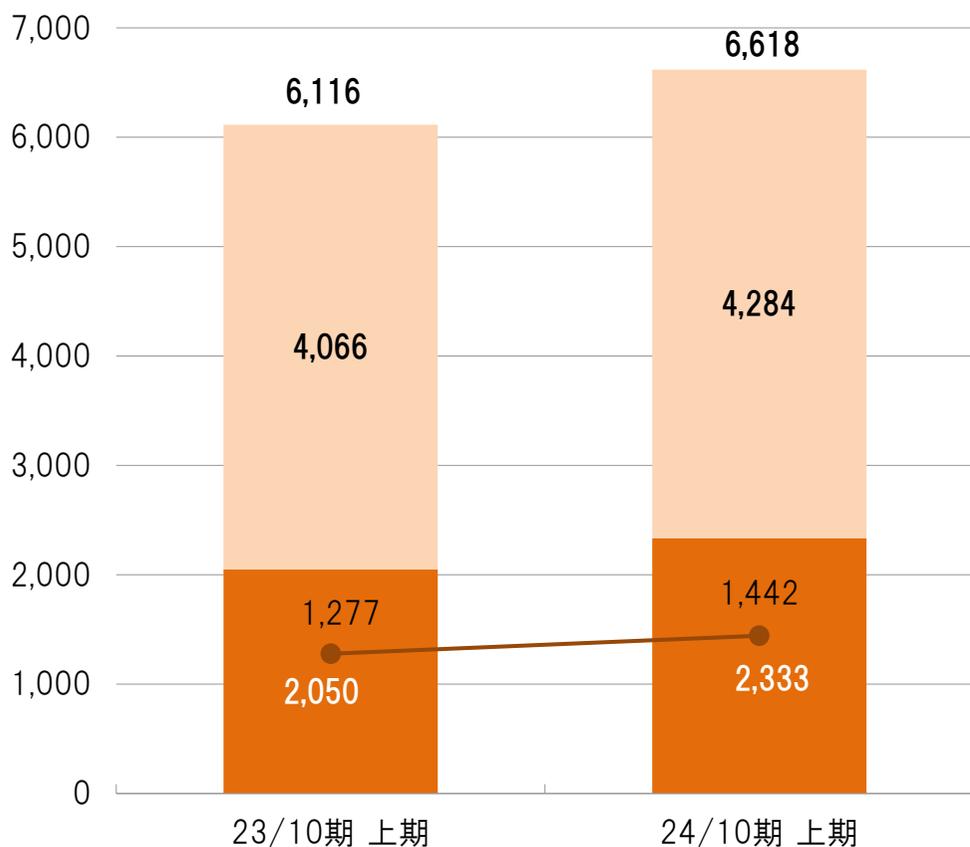
(単位:百万円)



上期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

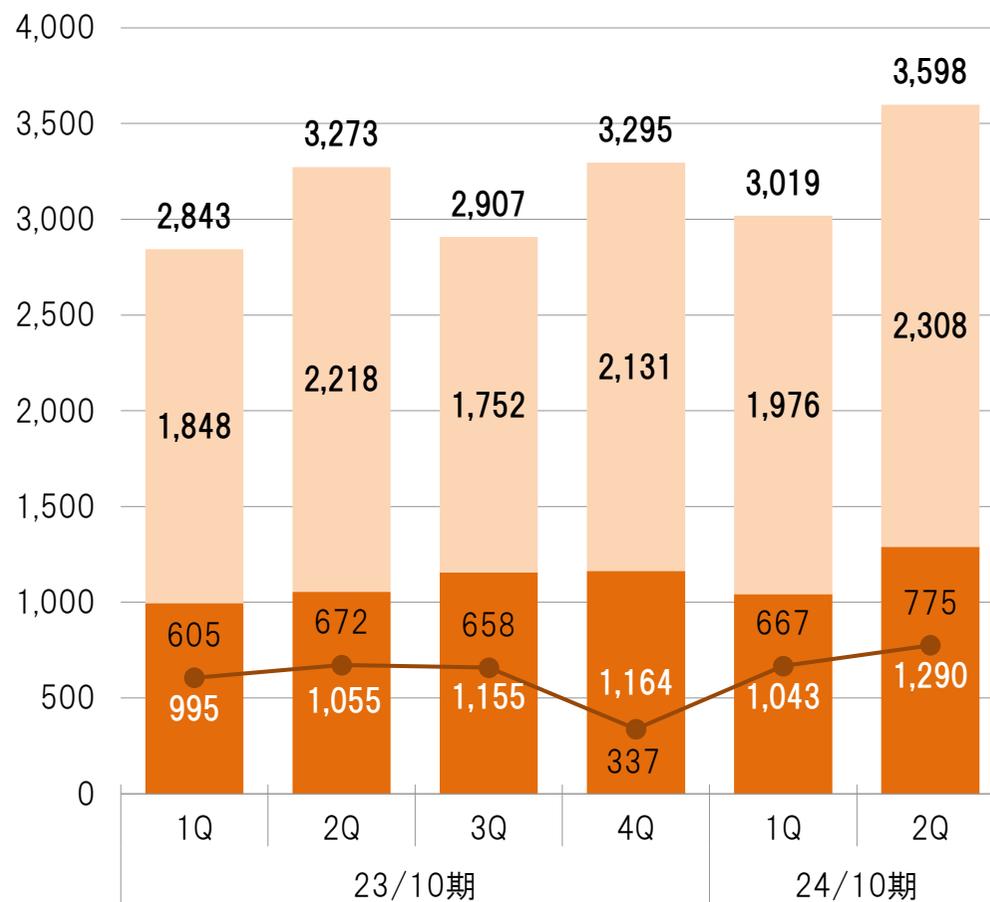
(単位:百万円)



四半期推移

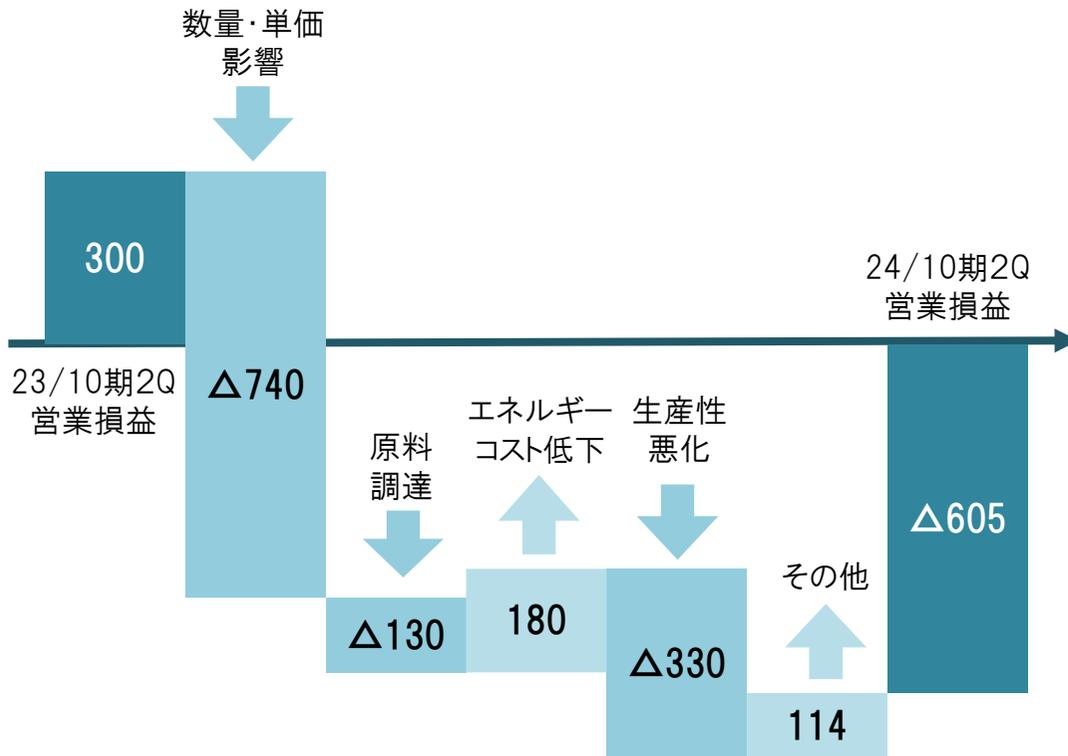
特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



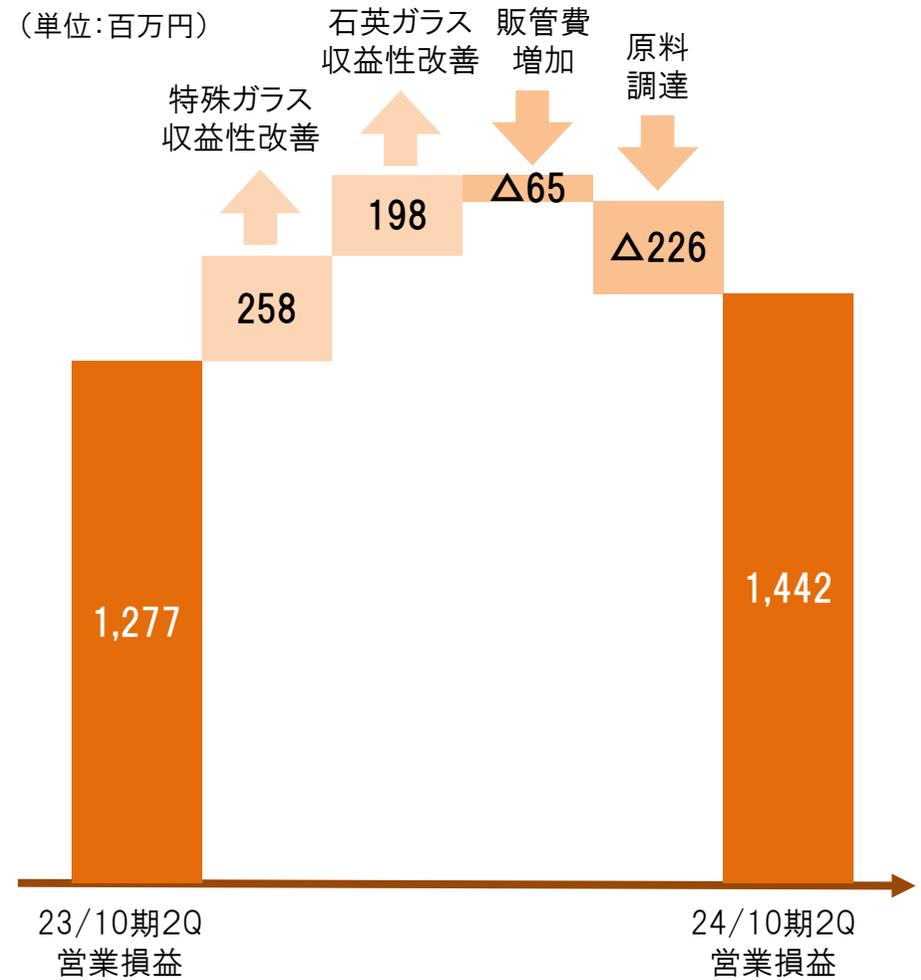
光事業

(単位:百万円)



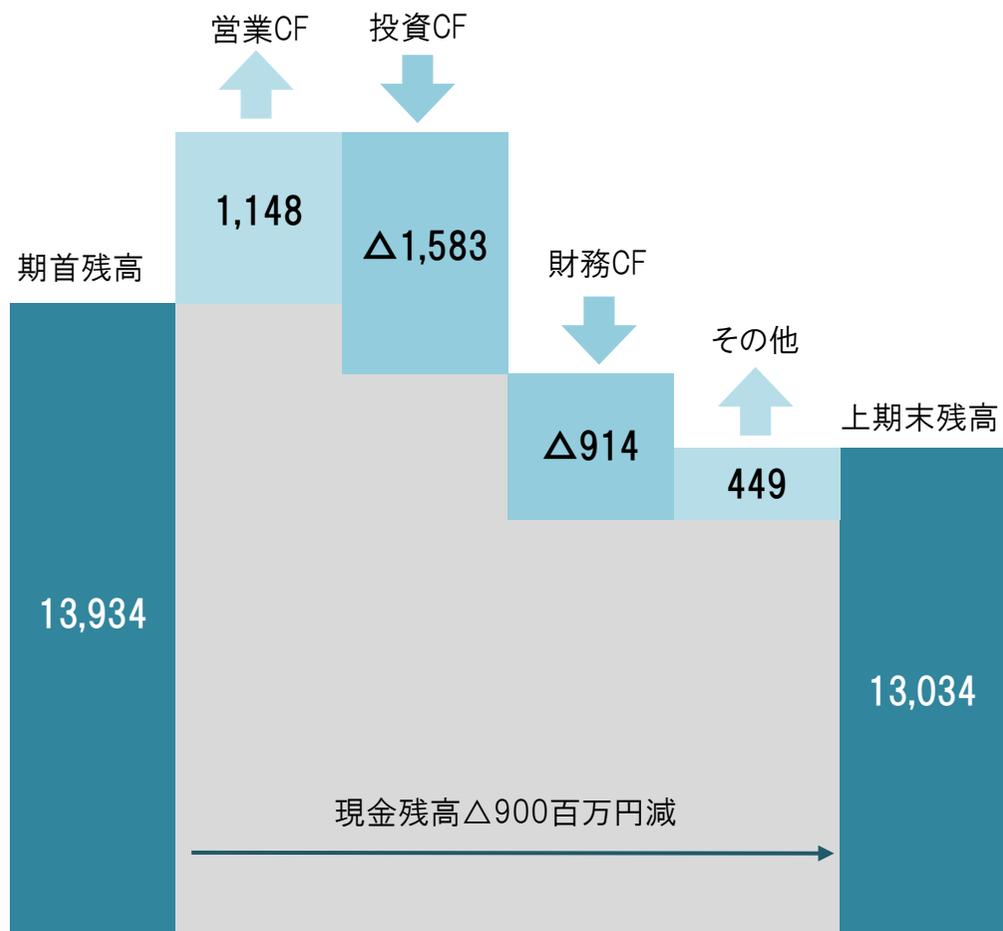
エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



増減要因

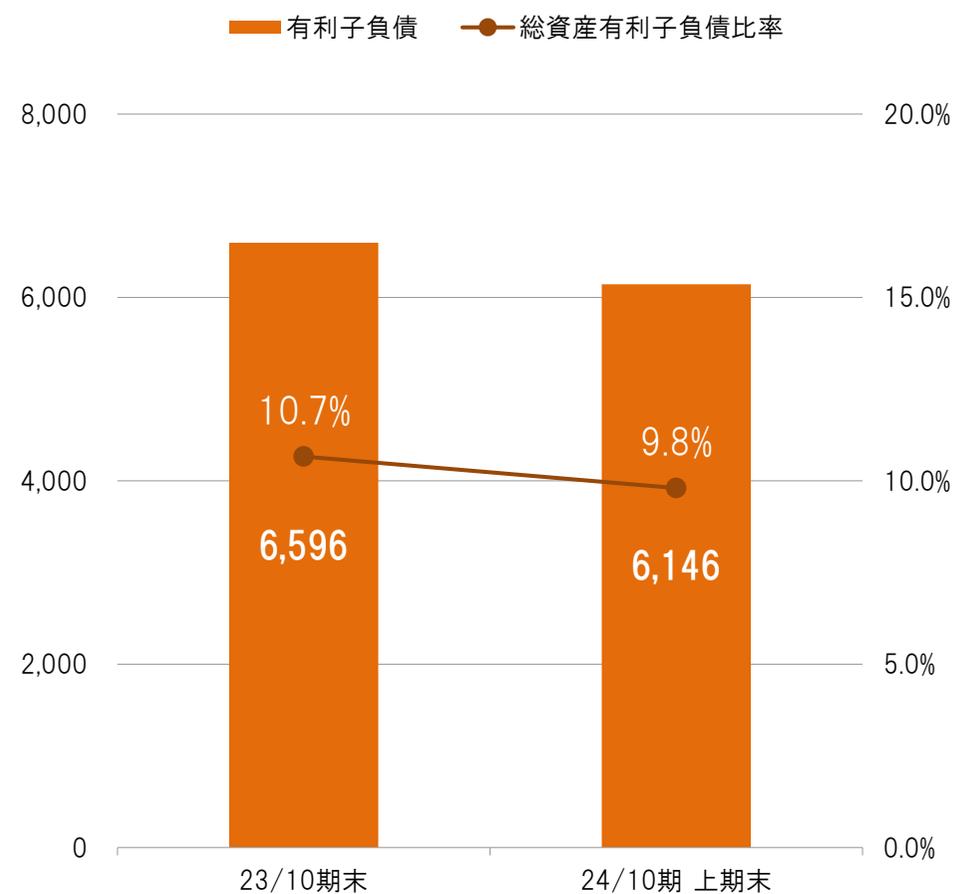
(単位:百万円)



有利子負債

(単位:百万円)

(単位:%)



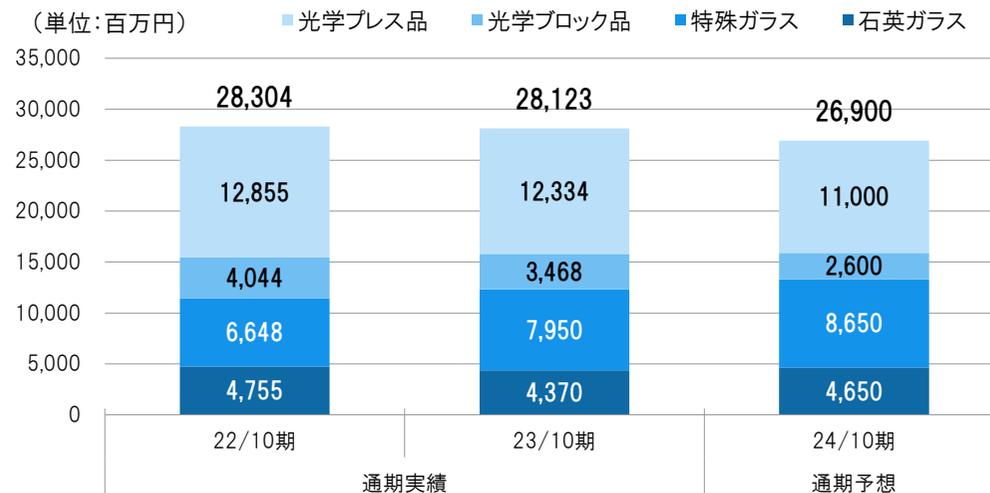
2024年10月期 業績見通し

通期見通しサマリー

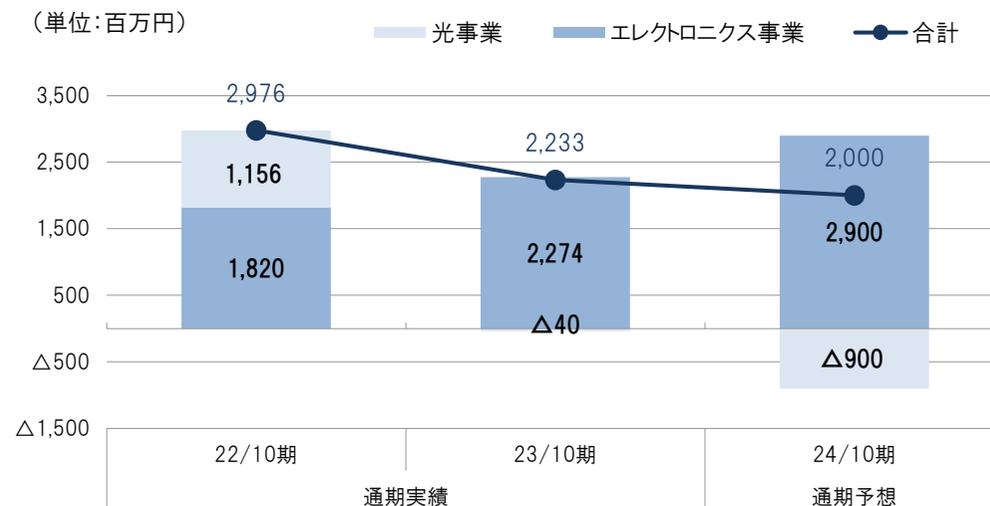
(単位:百万円、%)

	23/10期 通期	24/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	28,123	26,900	△1,223 △4.3%
営業利益	2,233	2,000	△233
[営業利益率]	7.9%	7.4%	△10.5%
経常利益	2,603	2,400	△203
[経常利益率]	9.3%	8.9%	△7.8%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,572	1,400	△172
[純利益率]	5.6%	5.2%	△10.9%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 139.28 149.49	期中平均 145.00 155.00	
年間配当金 (円)	20.0	23.0	

売上高内訳



営業利益内訳



光事業

■ デジタルカメラ市場

ミラーレスカメラの新製品が需要を底支えていることから、当面は横ばいで推移する見込み

■ 光学機器市場

画像認識技術や拡張現実技術の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

エレクトロニクス事業

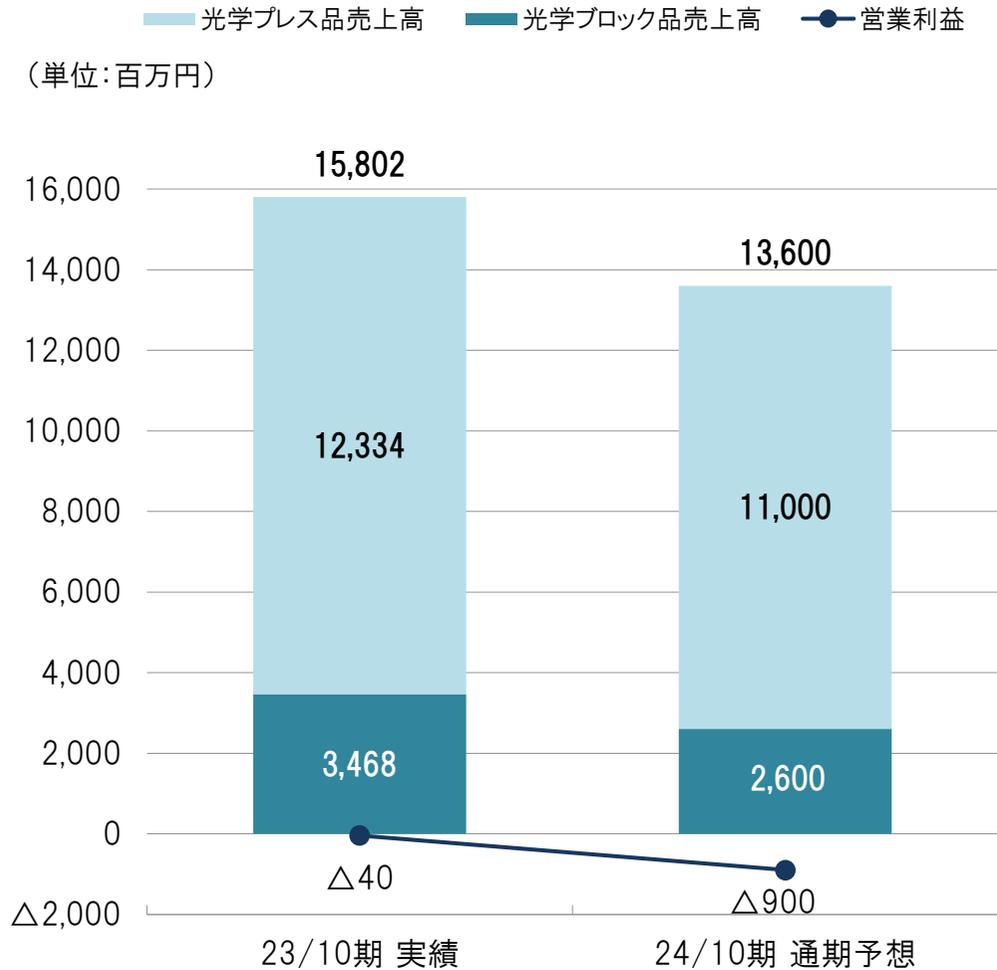
■ 半導体露光装置市場

メモリ需要に減速感が見られるものの、生成AIやパワー半導体などは旺盛な需要が続いていることから、設備投資は堅調に推移する見込み

■ FPD露光装置市場

大型設備投資案件の減少により弱含みで推移する見込み

通期対比



見通しのポイント

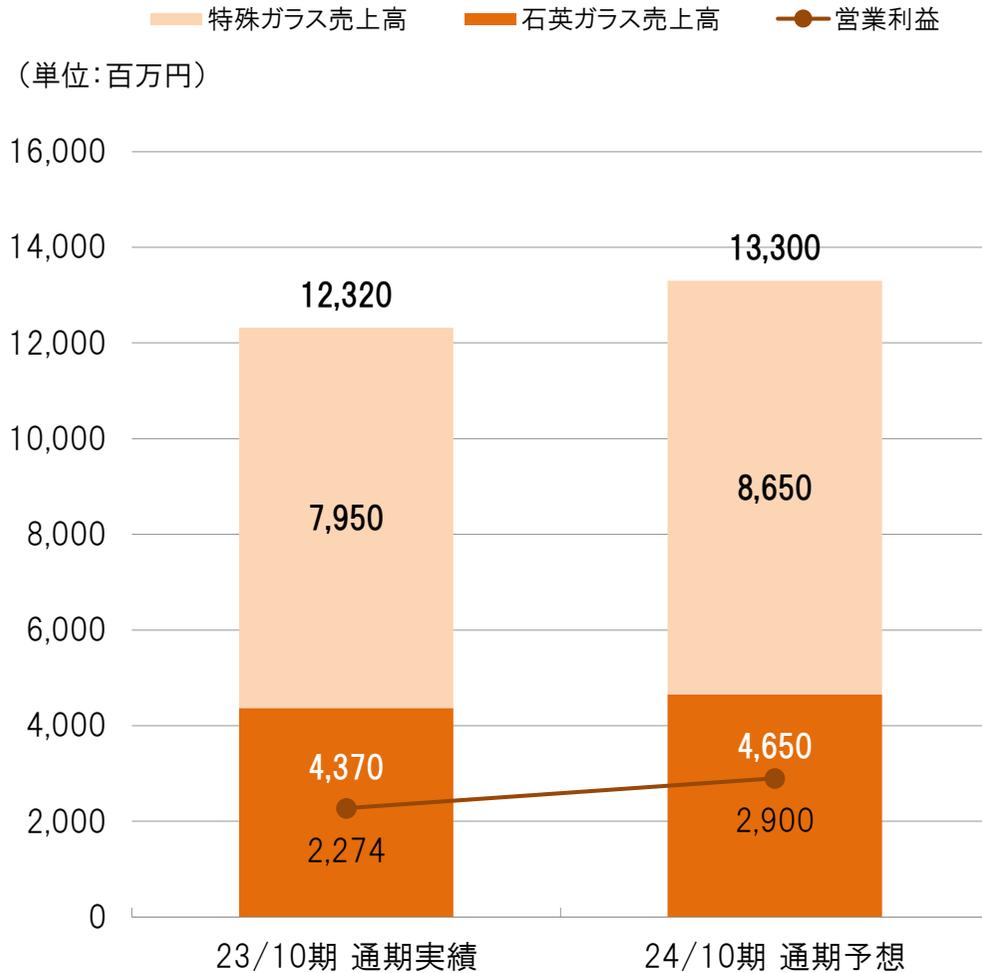
【売上高】

- ▶前期比△13.9%の減収見込み
- ▶光学プレス品、光学ブロック品は、上期を底にサプライチェーン内の在庫調整が緩和されてくるものの、24/10期の下期にも影響する見込み

【営業利益】

- ▶2Qを底に下期は回復基調となるものの、前期比△859百万円の減益見込み

通期対比



見通しのポイント

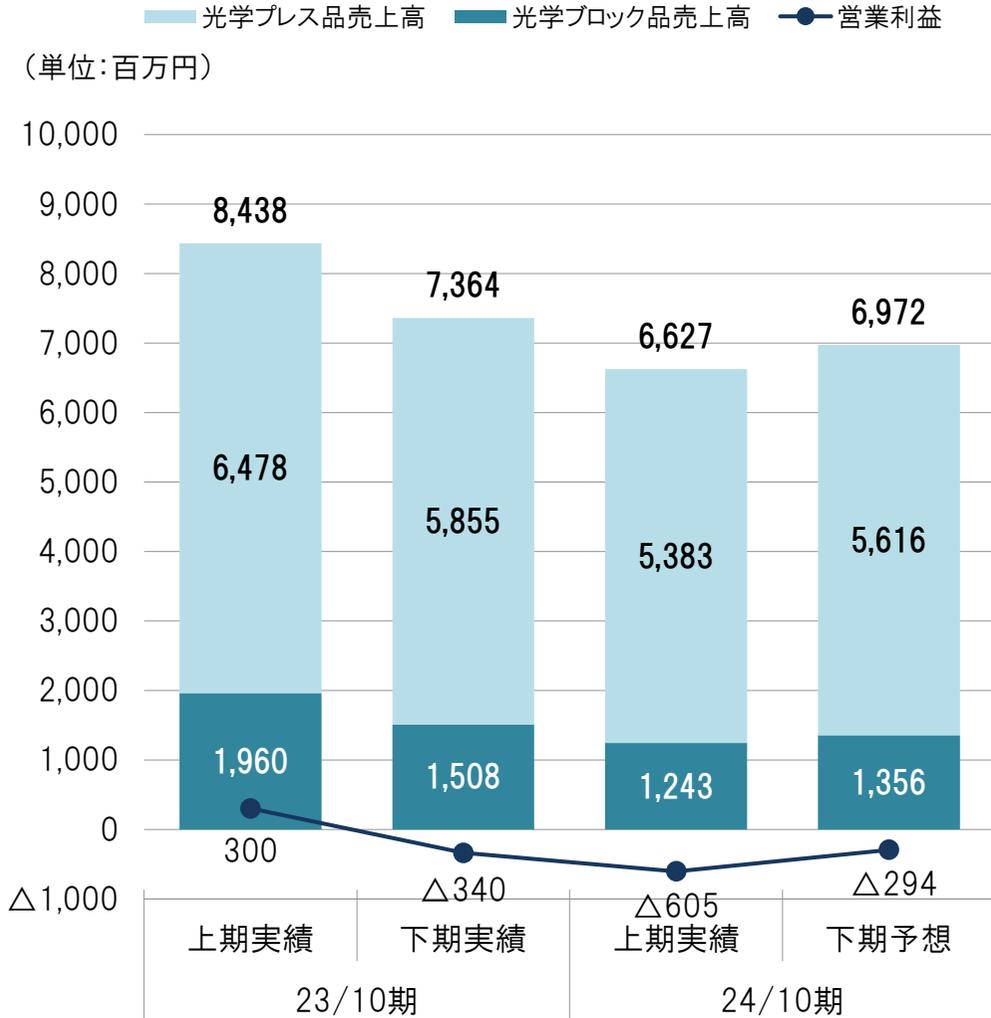
【売上高】

- ▶前期比+8.0%の増収見込み
- ▶半導体露光装置向け高均質光学ガラス、石英ガラスの需要が堅調に推移する見込み

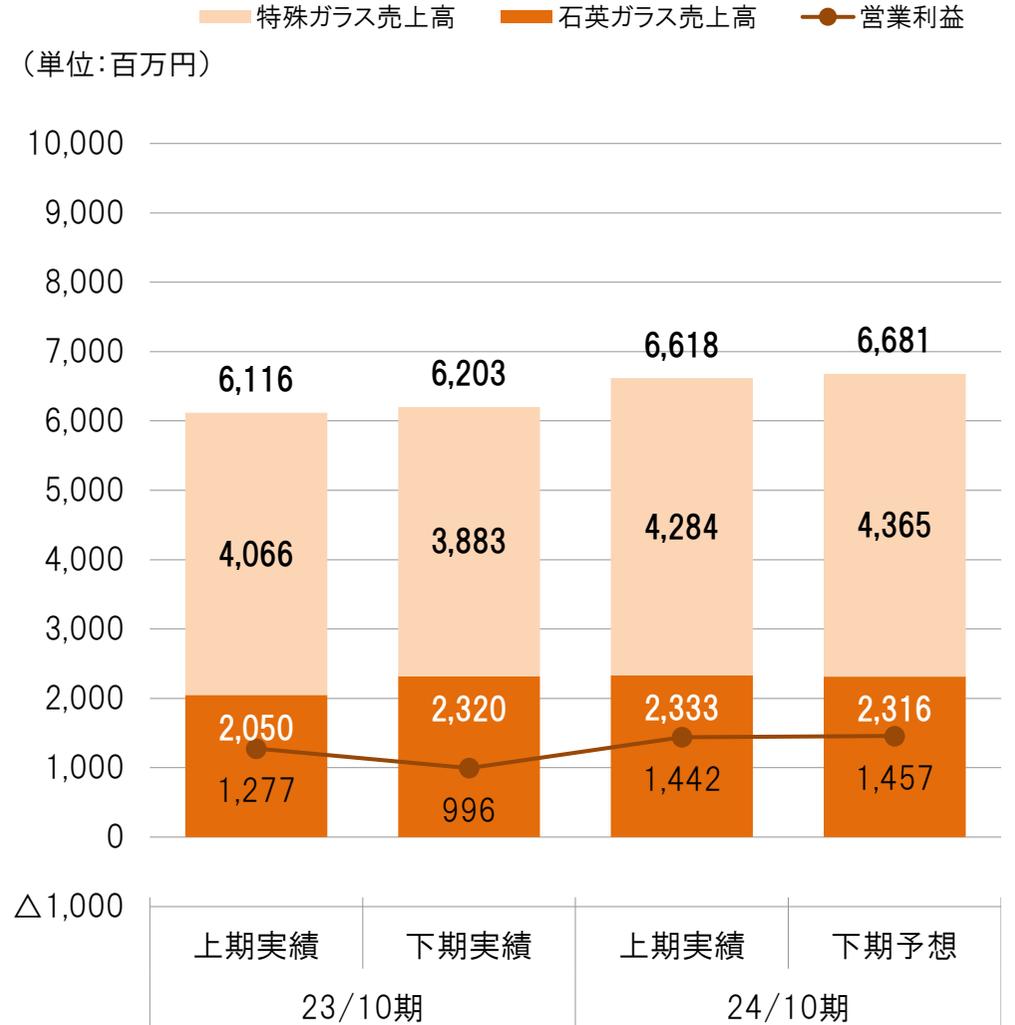
【営業利益】

- ▶前期比+27.5%の増益見込み
- ▶半導体露光装置向けの増産、売上の増加により利益が増加する見込み

半期推移



半期推移



24/10期業績予想修正まとめ

上期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (23/12/14)	修正予想 (24/03/08)	実績	増減額
売上高	13,600	13,100	13,245	145
光事業	6,800	6,600	6,627	27
光学プレス品	5,400	5,200	5,383	183
光学ブロック品	1,400	1,400	1,243	△157
エレクトロニクス事業	6,800	6,500	6,618	118
特殊ガラス	4,400	4,300	4,284	△16
石英ガラス	2,400	2,200	2,333	133
営業利益	1,000	800	837	37
光事業	△200	△500	△605	△105
エレクトロニクス事業	1,200	1,300	1,442	142
経常利益	1,100	900	1,127	227
純利益(親会社株主に帰属)	700	500	605	105
為替レート 円/1USD	期中平均 140.00	期中平均 140.00	期中平均 148.91	
円/1EUR	150.00	150.00	161.32	

通期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (23/12/14)	修正予想 (24/03/08)	修正予想	増減額
売上高	28,500	28,500	26,900	△1,600
光事業	14,400	14,400	13,600	△800
光学プレス品	11,500	11,500	11,000	△500
光学ブロック品	2,900	2,900	2,600	△300
エレクトロニクス事業	14,100	14,100	13,300	△800
特殊ガラス	9,100	9,100	8,650	△450
石英ガラス	5,000	5,000	4,650	△350
営業利益	2,700	2,700	2,000	△700
光事業	100	0	△900	△900
エレクトロニクス事業	2,600	2,700	2,900	200
経常利益	2,900	2,900	2,400	△500
純利益(親会社株主に帰属)	1,800	1,800	1,400	△400
為替レート 円/1USD	期中平均 140.00	期中平均 140.00	期中平均 145.00	
円/1EUR	150.00	150.00	155.00	

中期経営計画の進捗

経営基盤
の強化

新規事業
の探索

既存事業
の深化

【収益性の向上】

- ▶ 既存製品は付加価値を高めた製品の拡販 および 半導体などの成長分野の製品の生産能力を拡大
- ▶ 当社の強みを生かした材料開発と顧客や加工メーカーとの価値協創により新規事業を早期に立上げ

【資産効率の向上】

- ▶ 熔解技術の革新 および 自動化推進による生産効率の向上
- ▶ 製品ミックスの変化に合わせたグループ販売体制の再構築 および 生産拠点間での生產品目組み換え
- ▶ 熔解工程 および 加工工程 における外部委託生産の活用

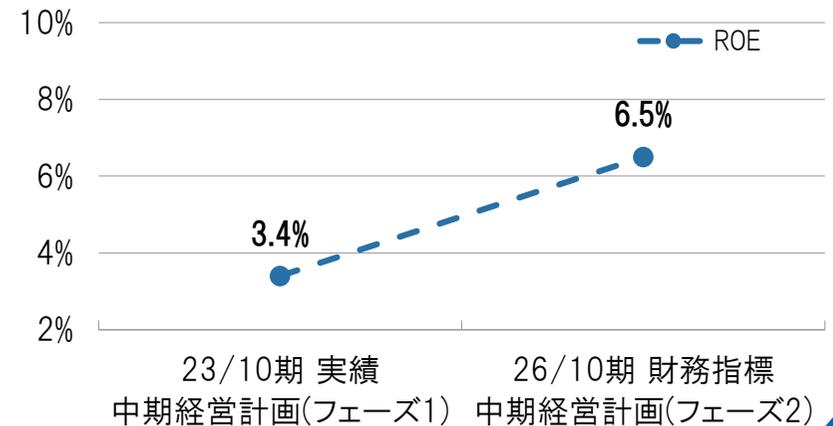
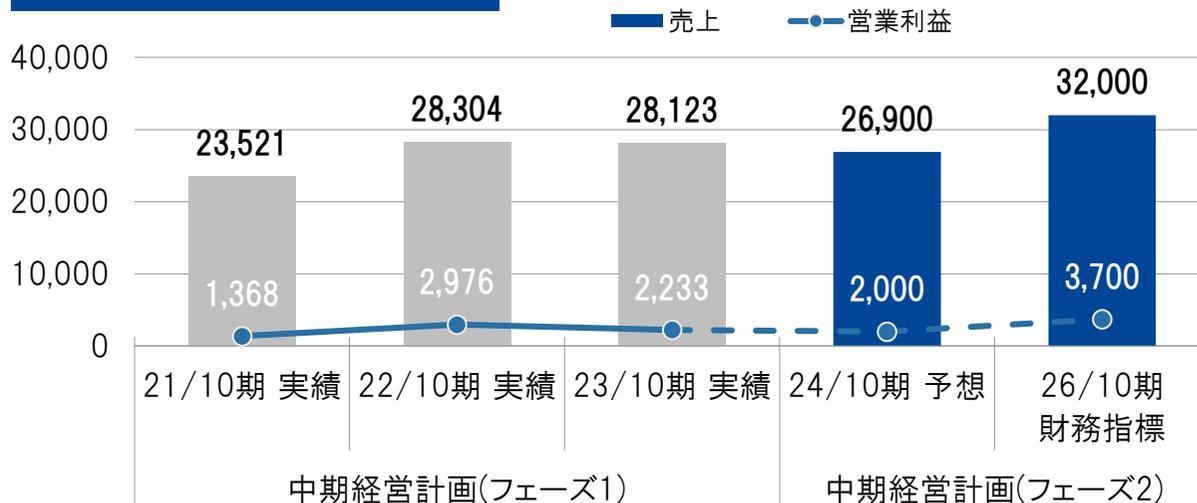
【ESG経営の推進】

- ▶ 人的資本における価値創造力の強化
- ▶ 社会課題 および 環境問題(温室効果ガス[GHG]削減)に対する長期的な取り組みの強化

⇒これらの施策を推進し、中期経営計画財務指標の早期実現を目指す

財務指標

(単位:百万円)



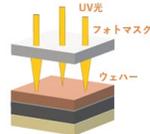
【収益性の向上】 エレクトロニクス事業の強化

・半導体製造工程で使用される露光装置、検査・測定装置等に当社の特殊ガラス、石英ガラスが使われる

前工程(露光工程)

i線 KrF ArF EUV

ウェハ表面にパターンを形成する際に露光装置を使用。露光装置に使用されるレンズ材、構造部材等に当社のガラスが使用される。
メモリ・ロジック・パワー・センサ等の用途(性能)に合わせて、i線、KrF、ArF、EUV露光機を使い分ける。回路幅の微細化で半導体性能は上がるが、前工程は微細化の限界が近づいており、今後の性能アップには後工程が重要となる。

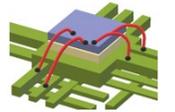


線幅の微細化が限界

後工程(ボンディング・パッケージング)

g線 h線 i線

微細な配線回路を焼き付ける際に露光装置を使用。露光装置に使用されるレンズ等に当社のガラスが使用される。前工程でEUV露光された最先端ロジック向けであってもパッケージは必要であり、i線、g線、h線の光源を使用した露光機が使われる。後工程も高精度化が続いており、i線光源が先端技術に位置している。



後工程のパッケージングが半導体性能アップの鍵

・半導体製造装置と当社材料の関係図 ※当社想定

製造装置 当社材料	i線露光機	KrF露光機	ArF露光機	EUV露光機	検査・測定装置等	後工程露光機 (g、h、i線)
特殊ガラス	レンズ材	—	構造部材	構造部材	レンズ材	レンズ材
石英ガラス	レンズ材	レンズ材	フォトマスク材	—	—	—

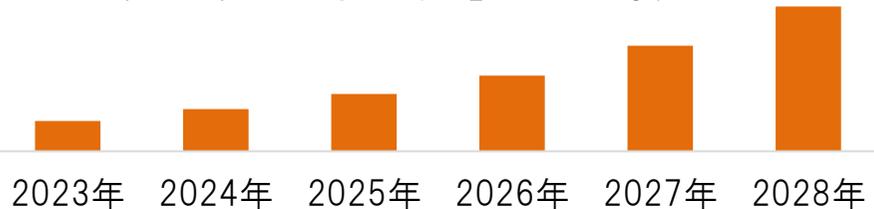
・当社取り組み

特殊ガラスは、i線露光機(前工程、後工程)、石英ガラスはKrF露光機向けに注力する
引き続き生産能力の増強を進め中計財務指標の早期実現を目指す

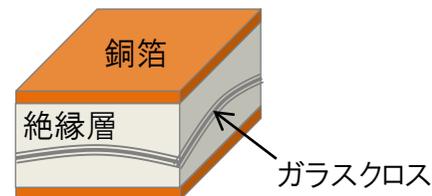
市場環境

- ▶生成AIの普及により生成AI用サーバーに搭載される電子基板の需要で大幅な成長が見込まれる
- ▶電子基板の伝送損失を回避するため、低誘電ガラスが含まれた基板の需要が高まっている
- ▶低誘電ガラス市場では、今後高機能化(誘電特性、膨張、強度、耐久性)が進む見込み

2023年を基準とした時の低誘電ガラス市場規模のイメージ



電子基板の層構造のイメージ



当社取組み

- ▶ガラス製造で培った高温熔解技術およびガラス特性管理技術の強みを活かした低誘電ガラスを供給
- ▶既存の光事業のインフラ設備をエレクトロニクス事業の生産に活用、設備投資を実施し、生産能力を拡充
- ▶当社の強みを活かし、顧客ニーズに対応する高機能材料の開発を進める

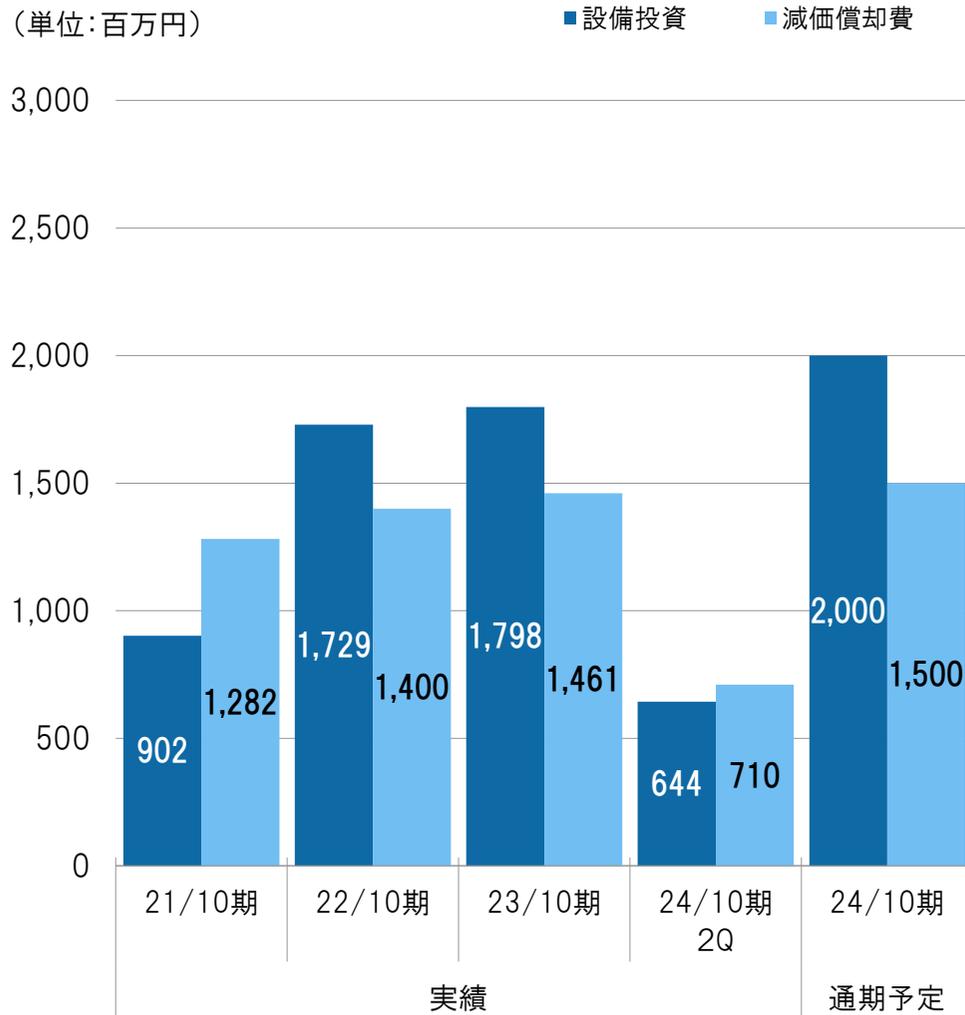


光学ガラス需要が減少し、稼働率が低下している生産設備を低誘電ガラスの生産へシフトすることで資産効率の向上を図る。

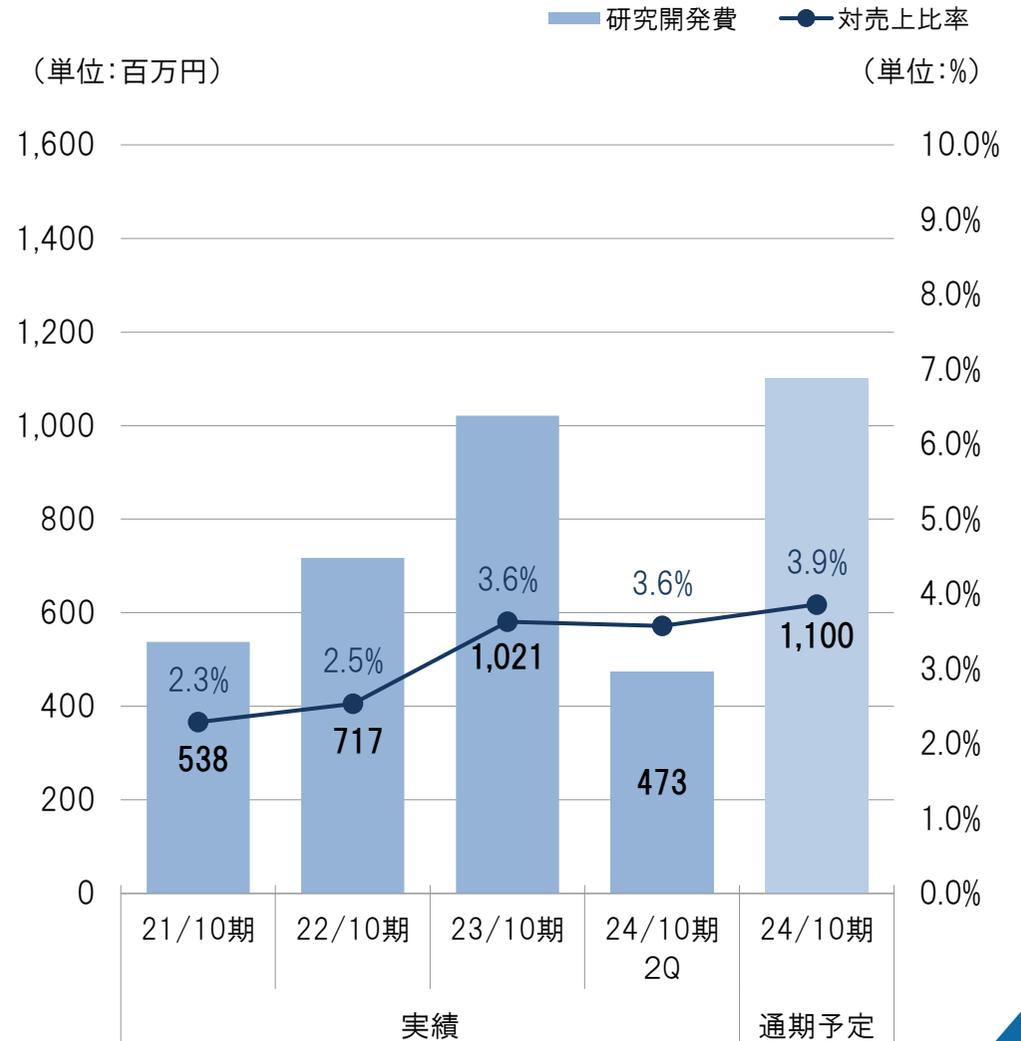
製造工程



設備投資、減価償却費



研究開発費



Appendix(参考資料)

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,476名(単体462名) (2023年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：10,576名 (2023年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業部統轄兼事業企画室長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2024年4月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.2%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,100	4.5%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	136	0.6%
10	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	121	0.5%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：組織変更をして株式会社小原光学硝子製造所を設立
- 1946 3月：本社を神奈川県相模原市に移転
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパ用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに商号を変更
- 1987 1月：中華民国台中県に光学プレス品の製造及び販売を目的として台湾小原光学股份有限公司を設立
- 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 11月：OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSGIに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
- 4月：ISO14001認証取得
- 10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
- 6月：大規模連続熔解開始
- 12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
- 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCIに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
- 8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
- 3月：足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	23/10期 上期累計	24/10期 上期累計
売上高(百万円)	8,438	6,627
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	55%	55%
プロジェクター	10%	10%
医療機器(内視鏡等)	10%	10%
車載カメラ	10%	10%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	5%
合計	100%	100%

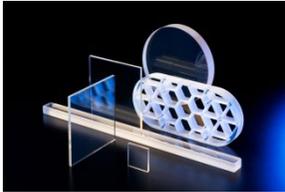
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

主要製品

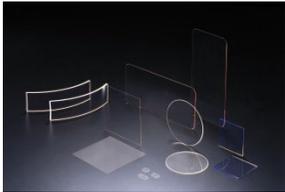
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



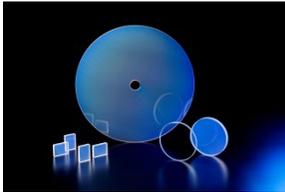
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	23/10期 上期累計	24/10期 上期累計
売上高(百万円)	6,116	6,618
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	45%	50%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	—
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	—
その他	30%	35%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心して快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。